

令和6年度第1回香川県教育センター運営協議会 議事録

【日時】 令和6年7月25日（木）10:00～11:30

【場所】 香川県教育センター 4階第5研修室

【出席者】 委員10名（欠席1名）、教育センター所長外4名
 ※傍聴人 無し

【議事概要】 令和6年度事業について

【主な質疑応答】

○組織・予算について

委員	カリキュラムセンター予算について、香川県情報教育支援サービスの関係で額が大きくなっているとの説明があったが、具体的にはどのような内容なのか。
事務局	高校教育課が主導して行っているもので、データセンターにおいて、県内各学校、教育機関等への教育情報を提供するとともに、各県立学校及び教育センター等での教育活動や研修等を支援するためのサービスである。学校教育の情報化を推進するということを目的としており、県立学校においては、インターネット接続やセキュリティ、フィルタリング、メール、ホームページ提供等のサービスを、教育センターにおいては、教育情報提供、受講申込み、アンケート、図書検索等のサービスを利用している。

○調査研究事業について

委員	調査研究事業について。20万円の予算でこれだけの調査研究事業を行っているのか。
事務局	義務教育課のモデル校事業の指導にあわせて行っている。教育センターから協力学校にお金は出せないが、指導主事を派遣して指導とともに取材し、報告書にまとめて発表している。
委員	1人1台端末の管理や運用については、各学校によっていろいろ違うと思うが、現在の時点で望ましい管理や運用の仕方、方向性はあるのか。
事務局	端末の運用管理については、土台として、教師がICTの強みを知り、日常化に向けた取組みや、持ち帰りの推進、主体的な情報モラル教育、これらを合わせて、今まで保管庫の中で鍵をかけて保管している状況から脱却し、子どもが管理し、持ち帰って使うような、そういうことを目指している。
委員	ICT活用の推進について、具体的には授業でどのように活用をしているのか。ICTをどういう形で授業に取り入れていこうとしているのか。
事務局	小学校でたくさん使われているのは、自分自身を見るということ。自分が何をやっているかを動画で友達にとってもらおうと、自分はこういうことをしていると、こういう状況だというのがわかる。
委員	教材として使っているのではないのか。
事務局	英語のデジタル教科書はあるが、他の教科は、市町によってそれぞれで、あまり普及してない。

委員	子どもたちがICTの端末を家に持ち帰ってどのように使用することを想定しているのか。具体的に言うと、家に持ち帰って、ICTタブレットを使って何をやり取りしているのか。
事務局	まだ持ち帰りをしているのが一部の学校という状況だが、例えば、宿題として、自分が発表するための材料をカメラ機能で撮影してくる。それから、授業の最後にまとめをする時間がないので、家でじっくり考えて感想を書くといったことを復習を兼ねてやっている。
事務局	今後持ち帰りが進めば、子どもたちは自分で興味があることは、教科書の二次元コードをICT端末を使って自分の学びを深めることもできる。子どもの学びの個性化が進む可能性がある。
委員	教科書に二次元コードがたくさんついており、子どもたちが家に帰ってタブレットで二次元コードを見て学びが広がっていくことも大事ではあるが、教科書は二次元コードではなく本文が本体であり、そこで学びを深めていくものであり、二次元コードを使うとタブレットの活用になるというのは少し違うのではないか。どのくらいの小学校、中学校の子どもたちが二次元コードを活用しているのか。
事務局	インターネット上のデジタル教材につながるので、授業の中で二次元コードを使っている例があるが、あくまでも参考資料として使っている。ゆっくり見たい場合は家で見てもよい。
事務局	学校において、どういったことで子どもの「わかった」が増えるか、子どものもっと学びたいという思いにつながるのか、そういったことを今調査研究中であり、先進事例をもらっているところである。今年度は調査研究の2年次だが、その中のいくつかについては3年次も継続して研究していくこともあると思う。そういう中で実際授業の中でどう活用するか、授業以外のところでもどう活用できるかという学校の事例について情報をもらい、視察に行きリサーチして、どんどん紹介しながら、普及を図っていきたい。

○教職員研修事業について

委員	学校現場として、この夏休みも研修を教員に受けてほしいとは思いますが、働き方改革が進みしっかり休みもとるという中で、専門研修の受講が少なくなっていると思っている。いろいろ良い専門研修があるので、学校がもっと興味を持って受講すべきであるが、プラントには、県の研修以外にも、全国の大学の研修も表示されるようになっており、今後はこういった全国の大学の研修を選ぶ教員も出てくるのではないかと考える。県の専門研修のあり方、アピールについて、またプラントで選べる全国の大学の研修との兼ね合いについてはどう考えているのか。
事務局	センターでの研修の充実については、プラントとの兼ね合いをあまり意識していない。センターでの研修は、専門研修の充実を意識しており、受講者の感想を見て内容を見直し精査している。 専門研修については、案内が年度初めの忙しい時期であるため、情報がうまく伝

	わっていないことや、申込みを受講意識が高まっていない時期に締め切っていることも受講者数に影響していると考えられるので、受講したいと思った時に、手軽に申込みができるようになれば受講者が増えるかもしれない。これらの点については、プラントを利用して改善したいと考えている。
委員	教職員研修について、将来的にどこかで統一して共通の科目、例えばICTの分野でのアプリの使い方みたいなのはどこで学んでも同じだと思うので、そういったものは国の方に任せて、各都道府県は、個別具体的に、地方に合ったもの、香川県では重要と思うものを厚くするというふうになっていくものなのか。
事務局	そのような方向を目指していきたい。確かに今は同じような研修をそれぞれの県で工夫して行っている。国（Nits）の研修が充実しているので、その研修をできるだけ活用しながら、そことは異なる部分に力を入れられたらと思うが、まだこれから目指していくような状況である。

○教育相談事業について

委員	教育センターだよりについては、毎月校内の全教員にデータで配布している。全教員に見てもらいたいと思っているので、個別具体的に載せることはできないと思うが、こんな相談が多かったということよりも、支援活動の中で行った専門的な助言について、どの学校、どの子にも役立つだろうと思われることを載せていただけると教員も目にとめ、また困っていることに役立てようと思うので検討していただきたい。
事務局	内容について検討したい。
委員	相談事業について、来所相談が増えると、今の体制では予約が取れないとか、相談時間が短くなって満足度が下がるといった問題が起きる可能性があるのではないか。そうならないように、来所相談の経年推移については気を付けておくべきである。

○カリキュラムセンター事業について

委員	施設開放事業について、県下全域から先生を集めて研修をする時に、教育センターの研修室を利用できてありがたいが、利用に際しては、電話で空き情報を確認して電話で申し込む形になっている。ネット上で空き情報の確認と申込みができるようなシステム構築はしないのか。申込みまではできなくとも、教育センターのホームページ上で空き情報だけでも確認できるようにならないか。
事務局	どのようなことが可能か検討していきたい。

○その他について

特になし